

北海道立近代美術館 × 札幌国際芸術祭

歴代受賞者

25名を紹介します

アートギャラリー北海道

北海道銀行創立70周年
道銀文化財団創立30周年記念

道銀芸術文化奨励賞受賞作家展

北海道立近代美術館 展示室A 2階
2021年9月15日(水)～11月7日(日)

25



令和3年度文化資源活用推進事業

札幌国際芸術祭/SIAF

siaf2014.info

siaf_info

siaf_info

<https://siaf.jp>

道銀芸術文化奨励賞の30年を振り返る特別ガイドブック
発行日：2021年9月15日 編集・発行：札幌国際芸術祭実行委員会／札幌市 協力：北海道立近代美術館、株式会社北海道銀行、公益財團法人道銀文化財団
デザイナー：菊地和広(ハックヤード)、本間雛子(H2) お問い合わせ：札幌国際芸術祭実行委員会事務局 TEL:060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階 TEL:011-211-2314 E-mail:info@siaf.jp

70
30

SIAF
30む
30む
シリーズ

道銀芸術文化奨励賞の

30年を振り返る

特別ガイドブック



北海道銀行×アートの歴史

企業がアートを支援することは、現在ではメセナ活動という名称で呼ばれ、世界中で広く浸透しています。それを70年も前から重視し、この北海道で実践していた人がいました。それが、北海道銀行初代頭取の島本融です。

島本は、銀行設立当初より「北海道経済復興の一助となることは大前提だが、企業は地域に育った芸術を支援する社会的責任がある」と説いています。そして継続的に支援を続けたのが、北海道を代表する洋画家・木田金次郎でした。

木田への支援を端緒として島本の支援は道外で活躍する画家にも広がり、北海道銀行が保有するコレクションは、800点にも及びます。

その中から厳選した作品群を、現在開催中の「北海道コレクション」(会場:mima 北海道立三岸好太郎美術館)でご覧いただくことができます。



木田金次郎

《りんご園》1958年 油彩、カンヴァス 65.0×80.0cm
北海道銀行所蔵

[同時開催]

アートギャラリー北海道

北海道銀行創立70周年 道銀文化財団創立30周年記念

北海道銀行コレクション

会場: mima 北海道立三岸好太郎美術館

会期: 2021年9月15日(水)～2021年11月23日(火・祝)

道銀芸術文化奨励賞とは?

島本の意思を受け継ぎ、北海道ゆかりの芸術家の支援と道民への鑑賞機会の提供を目指して、北海道銀行創立40周年の1991年に設立されたのが、現在の公益財団法人道銀文化財団です。

同財団は事業の柱として「道銀芸術文化奨励賞」を設置し、優れた芸術文化活動を行う北海道の若手芸術家を顕彰しています。同奨励賞では、1991年の開始当初は音楽(クラシック)、美術(絵画・版画・彫刻・工芸)、文学(小説)、舞台美術(演劇、オペラ、バレエ)の4部門から、2005年以降は、音楽と美術の2つの部門から、毎年1～2名(団体)を表彰し、発表の機会も提供しています。

本展覧会では美術部門受賞作家のうち25名の作品を紹介します。そして、この冊子では、作家が賞を授与された当時の作品を掲載しています。

設立30周年を迎えたこの奨励賞。これまでの受賞作家の現在の作品は受賞時と比べてどのように変化しているのでしょうか。作者の言葉を手がかりに、展示されている作品と見比べてみてください。なお、各作家ページには、その年の重大ニュースを掲載しました。トピックを振り返りながら時の流れを感じてみてください。

年表の参考文献:
北海道銀行六十年史(2011年11月発行 ※年表の参照は2011年3月まで)

特別ガイドブックについて

札幌国際芸術祭(略称:SIAF)実行委員会では、作品をじっくり楽しむための新しい鑑賞プログラム「SIAFふむふむシリーズ」を今年度スタートしました。この冊子はそのプログラムの一環として制作しています。冊子とともに、道銀芸術文化奨励賞受賞作家展をお楽しみください。

「SIAFふむふむシリーズ」の
プログラム詳細は、最終ページをご覧ください。→

目次

[1991年] 北口 さつき	3-4	[2009年] 波田 浩司／[2010年] 會田 千夏	17-18
[1992年] 米原 真司／[1994年] 橋本 礼奈	5-6	[2011年] 井桁 雅臣／[2012年] 久野 志乃	19-20
[1996年] 佐藤 克教／[1997年] 堀木 淳平	7-8	[2013年] 蒼野 甘夏／[2014年] 国松 希根太	21-22
[1998年] 平向 功一／[1999年] 香西 信行	9-10	[2015年] 高井 秀樹／[2016年] 上ノ 大作	23-24
[2000年] 陳 曜／[2001年] 伽井 丹彌	11-12	[2017年] 菱野 史彦／[2018年] 富田 美穂	25-26
[2003年] 小林 重予／[2005年] 鈴木 涼子	13-14	[2019年] 八子 直子／[2020年] クスミエリカ	27-28
[2006年] 野又 圭司／[2007年] 福井 路可	15-16		



1991年

北口 さつき [1962-]

●コメント

賞をいただいた30年も経ってしまった。この間、私の画風は一つにとどまらず、興味の赴くまま筆を走らせてきた。例えばそれは「裸婦」、「女」、「民族」、「草花」、「伝説」、だつたりと…。その中でも「さくら」はライフテーマになりそうな気がする今日この頃です。



《はだか》1990年 和紙、岩絵の具、顔料、箔 140.0×200.0cm

1991年

3月2日 札幌ユニバーシアード冬季大会開幕

6月3日 雲仙普賢岳 火碎流発生

12月26日 ソビエト連邦崩壊

1992年

米原 真司 [1961-]

●コメント

1990年日本のガラス展入選後、1991年の世界現代ガラス展に出品が受賞の理由と聞いています。幸運にも当時、道立工業試験場で幕別などの火山灰がらガラス纖維を製造する研究をしており、その副産物からの特殊なガラス纖維で「ラインドローイング」ができました。1993年受賞、そして退職後は北海道の自然のエネルギーからの生命力を、ダイナミックで繊細な表現を心がけ制作しています。その表現からの「古代の音」「スパイラル」シリーズは国内外の美術館に収蔵されています。



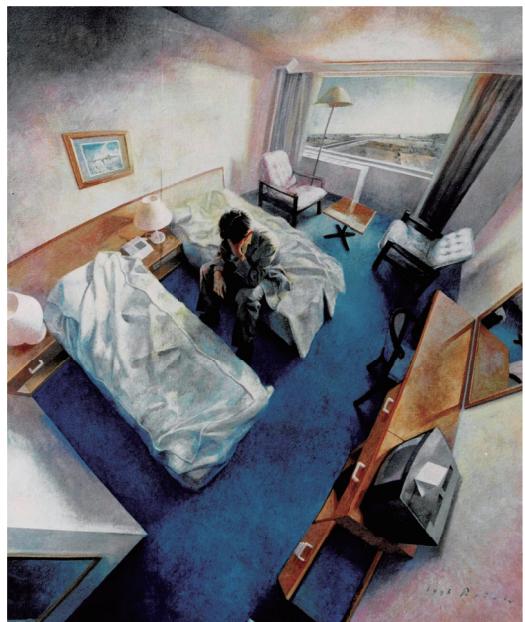
《ライン・ドローイング》1991年 宙吹き、ガラス纖維溶着、サンドブラスト、サンドペーパーによる研磨
[白]32.0×30.3cm [赤]32.4×29.8cm [青]31.3×29.2cm

1994年

橋本 礼奈 [1967-]

●コメント

受賞した頃(1995)は、実家で「子供」の立ち位置にいたので、生活にあまり頓着しなくて済み、時間に余裕があったにもかかわらず何を描いて良いか迷ってばかりでしたが、今は自分の家で「親」としての生活そのものが目の前に大きく立ちはだかっています。描く時間を捻出するのも大変ですが、目の前の「生活」自体が自分にとっての一番のリアルだと感じ、専ら子供の姿を通じて自分の生活そのものを描いています。



《One Day》1995年 油彩、カンヴァス 160.0×130.3cm

1992年

- 6月13-14日 第1回よさこいソーランまつり札幌で開催
- 9月12日 公立小・中・高などで週5日制(第2土曜日休日)開始
- 9月12日 毛利衛さん宇宙へ

1994年

- 6月23日 新千歳空港24時間運用体制、開始
- 7月8日 日本人女性初の宇宙飛行士・向井千秋さん宇宙へ
- 10月4日 北海道東方沖地震発生

1996年

佐藤 克教 [1948–2003]

● ご遺族からのコメント

幼い時は、紙と鉛筆、ハサミで紙飛行機を作ったり、侍の絵、草花を描いたりと手の掛からない子供でした。(母)

スキージャンプの放送を熱く応援する姿。ジャズをかけ、コーヒーを飲み、版木に向かっていた姿を思い出します。(妹)



《囚はれて》1998年 紙、木版 72.0×91.5cm

1997年

堀木 淳平 [1960–2016]

● 選考理由

新進ながら、モニュメントの公共性を考慮した堅実な姿勢が制作のベースとしてあり、その実績の上からも、将来に大きな進展が期待できる。モニュメント制作の発想に、都市空間・自然環境を広く視野に入れたスケールの大きさ、豊かさがあり、それを一つの作品としてまとめあげる力量にも優れたものがある。この分野で最も有望な作家として、受賞に相応しい。(当時の受賞者資料より)



《UNFOLD – 日向にて》1995年 420.0×310.0cm

1996年

- 2月10日 豊浜トンネル岩盤崩落事故発生
- 3月5日 駒ヶ岳54年ぶりに噴火
- 12月17日 ペルー日本大使館にゲリラ襲撃・占拠

1997年

- 4月1日 消費税率5%に引上げ
- 5月8日 アイヌ新法成立
- 10月22日 コンサドーレ札幌Jリーグ昇格、決定

1998年

平向 功一 [1964-]

●コメント

1996年から新しいテーマと日本画表現に挑戦し道内外の展覧会に出品し始めた頃に本賞をいただいた。この受賞によって背中を押していただく形となり不要な迷いを捨て、自信を持って制作に打ち込むようになり現在に至る。2015年からは従来の日本画表現にとらわれず、イメージしたものを作立体化したり、レイヤー化したりしながら様々な作品を制作している。



《N氏の船にのり》1997年 紙本彩色 227.0×181.0cm

1999年

香西 信行 [1951-]

●コメント

もうずいぶん前のこととなってしまいました。信楽で目標とした先生がいて、教えていただきましたが、弟子として修行したわけではなく、ずっとひとりでやってまいりました。そんな時この賞をいただき、ひとつの陶芸作品として認めていただいたことで、自信になったことを覚えています。1999年当時のこの作品は、陶芸会の記念展で会場にあわせて制作した大型のものですが、窯変の茶道具に興味を持って以来、今日まで茶道具中心に作成してきました。それはずっと変わっていません。



《心の世界〔I〕愛》1999年 陶 40.0×40.0×121.0cm

1998年

- 2月7日 冬季オリンピック・パラリンピック長野大会開幕
- 4月5日 明石海峡大橋開通
- 12月20日 AIRDOが新千歳ー羽田線に就航

1999年

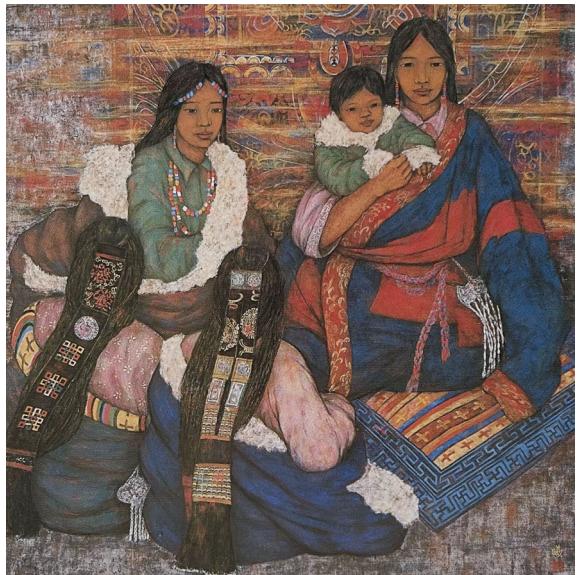
- 2月2日 都銀など、コンビニATMサービス開始
- 3月11日 大型商業施設「マイカル小樽」開業
- 6月23日 男女共同参画社会基本法公布・施行

2000年

陳 曜 [1963-]

●コメント

名誉ある第10回道銀文化芸術賞をいただきまして、とても光栄と存じます。自分の制作にとても励みになりました。受賞当時、来日まだ浅く、多くの作品は母国の内容で、その後、いろいろ勉強の機会を得て、日本や諸国にも旅し、それらの文化・風景などのテーマにも挑戦しています。このような展覧会に参加できる事に感謝いたします。



《連》2001年 紙本着彩、岩絵具 162.0×162.0cm

2001年

伽井 丹彌 [1957-]

●コメント

道銀芸術文化奨励賞を受賞してから20年が経ちました。当時は模索しながら制作していましたが、受賞により「この道で良いのだ」と背中を押して頂けたようにも感じ、その後も作り続ける事が出来ました。奨励金で当時まだ珍しかったビスクドールの電気釜を購入し、我流ながら新しい素材に挑戦することが出来ました。人形教室を初めて30年になりますが、最近ようやくビスクドールを作る生徒も増えて来ています。



《まるいもの》2000年 桐塑、硝子 他 112.4cm

2000年

2001年

- 1月4日 コンピュータ2000年問題、混乱なく政府が安全宣言
- 4月1日 介護保険制度スタート
- 7月21日 沖縄サミット開幕

- 6月2日 札幌ドームオープン
- 9月11日 アメリカ同時多発テロ事件発生
- 12月1日 雅子さま、女児ご出産

2003年

小林 重予 [1957–2017]

●ご遺族からのコメント

ちょうど精力的に作品を作り、個展・パブリックアートなどの発表の場も増えてきたころの受賞で、その後の大きな励みになっていたことと思います。



《動かすことのできない唯一の根拠》2002年 木、銅、真
鍮、貝、絹、羊毛、アクリル絵具 62.0×45.0×50.0cm

2005年

鈴木 涼子 [1970–]

●コメント

2005年の受賞時に制作していた「Mama Doll」という作品は、実在の母親と娘や息子の顔を重ね合わせて、架空の人物をつくり出した作品です。この当時から、美術に家族(人間)やジェンダーという視点を重ねて作品制作を行なってきました。社会が作り上げた家族観やジェンダーロール(性別役割分担)が現代の生きづらさを生み出しているとしたら、コロナ禍の今こそ何が起きているのかを、しっかりと見つめていきたいと思います。



《Rituko-Takumi from the Series Mama Doll》2004年
発色性カラープリント 120.0×150.0cm

2003年

3月20日 イラク戦争勃発

8月5日 プロ野球北海道日本ハムファイターズ誕生

12月1日 地上デジタル放送開始

2005年

3月25日 愛知万博「愛・地球博」が開幕

4月1日 個人情報保護法全面施行

7月17日 知床半島が世界自然遺産登録

2006年

野又 圭司 [1963-]

●コメント

私は特に美術教育というものを受けずに、ただアルバイトで生計を立てながら好きなものを作る生活を続けており、作品の材料や作品の搬入搬出、展示の終了後の作品の保存などに大変なコストがかかるので、賞金が非常にありがたかった。受賞当時も今も制作の考え方はさほど変わってはいないが、体力的に衰えたことから大作を制作する意欲がなくなったような気はする。



『the beautiful nation』2007年 木材・鉛・銅 他
270.0×360.0×300.0cm

2007年

福井 路可 [1959-]

●コメント

自身の瞼を観ることは出来ない。瞼を閉じることで見えてくるものがある。何時もこんなことを思いながら絵画の可能性について考えている。それはクラシックという意味ではない全く正反対の軸が感覚出来ることで見えてくる様な気がしている。言い換えると、定常的解釈を超えた時間感覚や輪廻、或は風や水等の可視化・異化作業への試行、絵画空間上の座標軸への置換といったこと。現在はこの延長として、ミクストメディアによる色彩表現に重点を置いた作画効果から派生する表現とバランス感覚への試みが融合することで新たな絵画空間の表出を目指す。



『夜の雨、明日の海-07.10-』2007年 ミクストメディア、パネル
244.2×308.6cm

2006年

- 3月20日 野球の国別対抗戦(WBC)で日本優勝
- 4月28日 スカイマーク、新千歳ー羽田に就航
- 9月6日 世界人口65億人突破

2007年

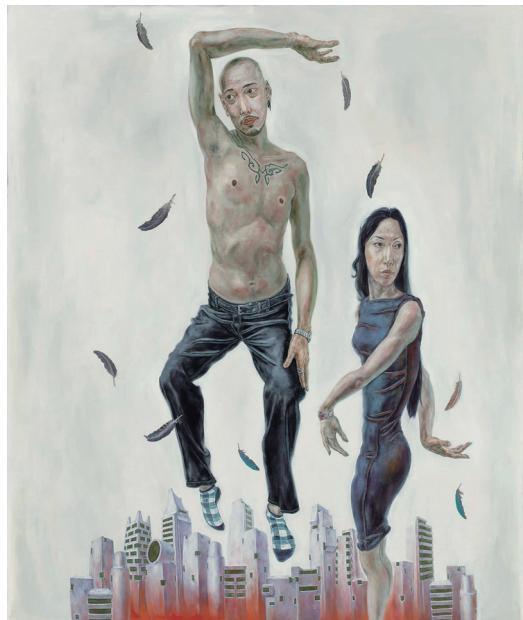
- 3月6日 夕張市、財政再建団体に
- 10月1日 郵政事業民営化
- 11月21日 山中伸弥京都大学教授がiPS細胞の樹立に成功

2009年

波田 浩司 [1971-]

●コメント

以前は、羽の舞う日というテーマで取り組んでいました。浮遊感があり、どこか不安げな世界を描いていました。また、デフォルメを強調することにより、画面に極端な動きをつくりあげようとしていました。近年は、陰影の色に注目しています。



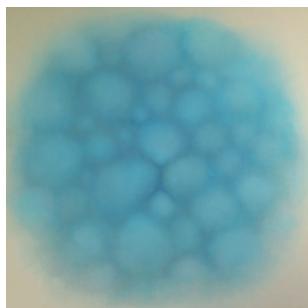
《羽の舞う日》2013年 油彩 194.0×162.0cm

2010年

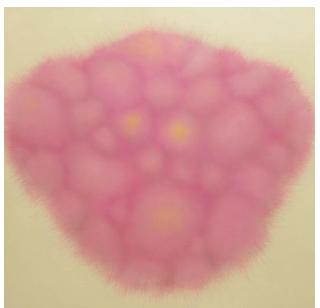
會田 千夏 [1980-]

●コメント

道銀文化財団さまの、北海道の文化振興における広い取り組みに感謝しております。丁度、私が受賞記念の個展の為に作品を作っていた時、東日本大震災が起こりました。煙や、車が行きかう街並みを飲み尽くす津波の映像が頭から離れず、灰色になった土地や心に色を戻したい、祈る気持ちで描いたことを思い出しました。昨年からの世界的状況も私たちの内部から灰色に変えていきそうな出来事です。心を静かに保つよう努め、欲しい色、欲しい光を探し当て表現したいという気持ちは10年前と変わっては居ないかもしれません。そこに少しずつ、意思を隠し入れていきたいと思っています。



《portrait 2011.3.13》2011年
オイルオンボード 90.0×90.0cm



《portrait 2013.1.15.a》2013年
オイルオンボード 90.0×90.0cm

2009年

- 1月20日 バラク・オバマ米国大統領就任
- 5月21日 裁判員制度スタート
- 新型インフルエンザ全国的に流行

2010年

- 1月1日 日本年金機構が発足
- 6月13日 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還
- 10月6日 鈴木章氏、根岸英一氏にノーベル化学賞

2011年

井桁 雅臣 [1964-]

●コメント

「2011年のあの時から、いまも変わらないこと。」

ぼんやりと曖昧にたゆたう色彩の中に、誰の心の奥にもある何かの色や音や匂いの思い出、感じることはできるのになぜか不確かになった遠い記憶を呼び覚ますこと。喜びや懐かしさ、悲しさといった心の中にある感情を、色や形にして描くこと。でもはっきりとはつかめない記憶の一つひとつを、曖昧なままに捉え描き出すこと。透明な齧歯を孕み、幾重もの変容を迫られた色を最後にそっと繋ぎとめておくこと。そして、絵になってしまう前の、絵を描くこと。遠くで「色」が呼んでいて、近づくと「線」が語り出す。そんな絵を描きたいと、いまも願っているのです。



《王子とAQUA》2011年 アクリル、キャンバス 194.0×194.0cm

2012年

久野 志乃 [1978-]

●コメント

2012年にギャラリー門馬で個展を行った時に自分のテーマで全体が物語のように連なる展示を構成して、はじめて自分がやってみたいと思っていた形で個展が出来たなという実感がありました。その後2013年にこの賞を頂

ける事になり、とても嬉しく思ったことを覚えています。他の記憶を基にして多重の視点を持って絵を描いてみたい、という考え方には、その時から現在も持ち続けています。



《光の島》2012年 キャンバス、油彩 68.0×24.0cm

今はその流れの中で環世界という生物学の概念に触れ、人間以外のものがもつ視点や時間についても作品に取り入れてみたいと思っています。

2011年

- 3月11日 東日本大震災・福島第一原発事故発生
- 3月12日 札幌駅前通地下歩行空間開通
- 7月17日 サッカー女子W杯、日本代表初優勝

2012年

- 5月5日 国内原発42年ぶりに50基全て停止
- 5月22日 東京スカイツリー開業
- 10月8日 山中伸弥京大教授、ノーベル生理学・医学賞受賞

2013年

蒼野 甘夏 [1973-]

●コメント

あのころの私は、とくに何を描いていこうということではなく、その時書きたいものを描いていました。受賞して、展覧会もしていただいたことで、百貨店の画廊からお声かけいただき、個展が開けるようになり、その頃から、人物を描く作家として知られるようになりました。今ではお陰様で、美人画の作家として認知されるようになりました。



《Escualo》2010年 鳥の子紙、墨、水干絵具、岩絵具、泥絵具
116.7×272.7cm

2014年

国松 希根太 [1977-]

●コメント

制作の考え方は大きく変わっていないが、少しづつ一つのテーマを色々な解釈で捉えることが出来る様になってきていると感じている。



Photo : Kai Takihara

《HORIZON》2015年 板に胡粉、墨、アクリル絵具、鉄 100.0×240.0cm
森ビル株式会社蔵

2013年

- 6月9日 米NSAの個人情報収集が発露「スノーデン事件」
- 6月26日 富士山が世界文化遺産登録
- 9月8日 2020東京オリンピック・パラリンピック開催決定

2014年

- 4月1日 消費税率8%に引上げ
- 7月1日 政府、集団的自衛権行使容認を閣議決定
- 10月7日 ノーベル物理学賞に、青色LED開発で日本の3氏が受賞

札幌国際芸術祭2014(SIAF2014)開催

2015年

高井 秀樹 [1957-]

●コメント

2011・12年に人間国宝、井上萬二伝承者養成研修会『白磁』に参加する幸運を得た私は、陶器と磁器の素材としての違いに驚きを感じながら、どう向き合っていくか試行錯誤を繰り返していました。そんな時に頂いた本賞のお話は迷い児の様であった私に大変励みとなりました。当初は磁器土での制作の幅が狭くやっと出来た感が否めませんでしたが、磁器を始めてほぼ10年がたち、自分の形をどう作っていくのか、挑戦を繰り返しています。



《青白磁花器》2012年 磁器 46.0×47.0×18.0cm

2016年

上ノ 大作 [1970-]

●コメント

元々、陶芸家として活動していた自分が、土以外の素材も使い始めたのが2007年頃で、第26回道銀芸術文化奨励賞を頂くまでの10年間は、野外彫刻展に参加したり海外での作品発表を始めたりと活動の幅が広がっていった時期で、そんな中でこの賞を頂けたのは、とても嬉しかったのを覚えています。その後も表現方法や素材など変わった事もありますが、本質的な部分は土や火に教えられた事が大きいと自分では感じています。



《WORMHOLE》2017年 竹ひごによるインスタレーション
240.0×150.0×800.0cm

2015年

- 9月19日 ラグビーW杯、日本が南アフリカに歴史的勝利
- 9月19日 安全保障関連法が成立
- 10月5日 マイナンバー法施行

2016年

- 3月26日 北海道新幹線開業
- 5月27日 オバマ米国大統領、原爆戦没者慰靈碑に献花
- 6月23日 英国がEU離脱決定

2017年

菱野 史彦 [1972-]

●コメント

私が受賞したのは2018年、すでに3年経ったとも未だ3年しか経っていないとも言える時間ですがその間世の中は当時からすると想像も出来ない状況に変わってしまっている。そんな状況下で自らを振り返ると変化を欲しながらも停滞してしまいどこか他人事のような感覚の製作意識に陥ってしまうことありもどかしい感情にあがいてきた。3年という時間でいまだ求める物を見いだせていないが今後も試行錯誤を繰り返し制作していきたい。



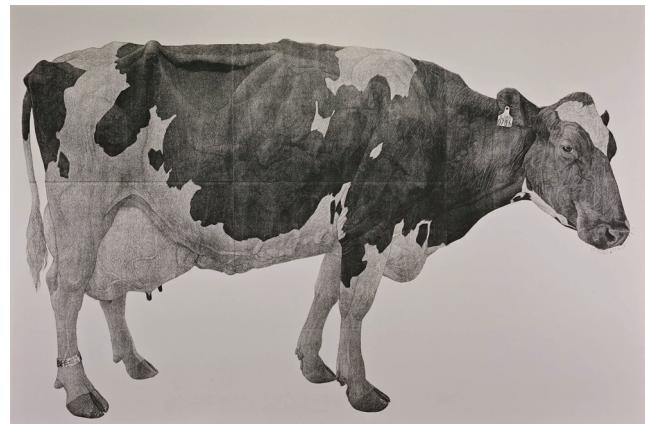
《Structure of the Phenomenon》 2018年 スチール
168.0×161.0×147.0cm

2018年

富田 美穂 [1979-]

●コメント

第28回道銀芸術文化奨励賞を受賞して2年半ほど過ぎました。ちょうど雪まつりの時期、たくさん的人が行き交う大通公園を臨むらいらっく・ぎゃらりいで、牛一頭分の大作を展示させていただいたのがとても嬉しかったですし、今ではなんだか夢のようです。あれから世界はずいぶん変わってしまったように見えますが、人も牛も生きていくことには変わりありませんので、私は肅々と目の前の牛を見つめて、牛を彫り続けていこうと思います。



《701全身図》 2018年 木版画 182.0×273.0cm

2017年

- 1月20日 トランプ米大統領就任
- 7月7日 国連、核兵器禁止条約採択
- 9月9日 桐生祥秀、陸上100mで日本人初の9秒台
- 札幌国際芸術祭2017(SIAF2017)開催

2018年

- 7月23日 埼玉県熊谷市で国内最高気温の41.1°Cを記録
- 9月6日 北海道胆振東部地震発生
- 12月3日 ユーキャン新語・流行語大賞で、カーリング女子の「そだねー」が受賞

2019年

八子 直子 [1967-]

●コメント

必然的にモチーフは我が子であり、そこから派生する環境風景や御守や祈りだったりとテーマが枝分かれしながら増えていきました。子が小さな時はその関係性も閉じられた中で非常に密であり、空間もプライベート。時が経つにつれ空間は広がり、関係性は良い意味で薄まっていく。そして我が子を見つめていた眼は次第に自分の幼小期に向かい当時のお気に入りのモチーフの分析を試みたり、我が子との相違点をさがしたり…。そのような中での受賞でした。現在はその場所でプライベートの中であっても他者と共有できそうな記憶を追うことに面白さを感じ始めています。



《泌(Soak)》2018年 ベニヤ、アクリル、長靴、ガラス 等
175.0×92.0×25.0cm

2020年

クスミエリカ [1982-]

●コメント

2020年度、新型コロナウィルス蔓延によって大きく変化した社会を目の当たりにして、2019年以前とは明らかに違う意識をもって作品を制作するようになっていると感じている中での受賞でした。感染防止対策で色々と大変な中、財団の皆さんにご尽力いただき展示も実施できたことに深く感謝しております。以前より生と死、世界の循環を大きなテーマとして制作していましたが、2021年になり状況がまた色々と変化する中で、個人的・歴史的終末観、そして希望を求める世界を作品に反映させたいと考え、日々制作にあたっています。



《Restoration》2021年 インクジェットプリント、アクリルマウント
72.8×103.0cm

2019年

- 5月1日 天皇陛下が即位「令和」に改元
- 10月13日 ラクビーW杯日本大会 日本8強入り
- 10月31日 首里城焼失

2020年

- 全世界で新型コロナウィルス感染拡大
- 3月24日 東京2020オリンピック・パラリンピック開催を1年程度延期することを発表
- 7月12日 民族共生象徴空間「ウポポイ」開業

札幌国際芸術祭2020(SIAF2020)中止
代替として「SIAF2020特別編」実施

SIAF ふむふむシリーズ

SIAFふむふむシリーズとは？

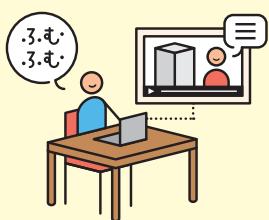
「SIAFふむふむシリーズ」は、札幌国際芸術祭(SIAF)実行委員会が、展覧会や展示作品をより楽しむ方法や情報を提案する新しい鑑賞プログラムです。今年度は、SIAFの主要会場である市内4箇所の文化施設と連携し、「知る、体験する、共有する」ためのプログラムを発信します。

1 知ろう！

アーティスト紹介動画 (YouTubeで順次公開中)

出展アーティストの皆さんにご協力いただき、紹介動画を公開中です。動画では、自己紹介から始まり、制作スタイルやコンセプト、そして奨励賞受賞時の作品から現在の活動など

じっくりお話をいただいているいます。



SIAF
YouTube
チャンネル
→

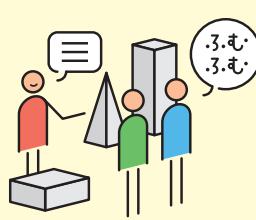


北海道立近代美術館では、アートギャラリー北海道 北海道銀行創立70周年 道銀文化財団創立30周年記念「道銀芸術文化奨励賞受賞作家展」において「知る、体験する、共有する」ための3つのプログラムを開催します。

2 体験しよう！

「道銀芸術文化奨励賞の30年を振り返る特別ガイドブック」

今、手に取っていただいているこのガイドブックです。作品や作家の意識は時代とともに変わっていきます。この冊子では、受賞当時と現在の作品について作家自らのコメントを掲載しています。

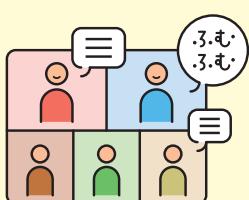


展覧会会場で展示されている作品との共通点や違いを見つながら、じっくりとお楽しみください。

3 共有しよう！

SIAFラウンジオンライン

SIAFラウンジオンラインは、芸術祭が毎月10日に実施している登録制のオンラインサロンです。10月のテーマはこの展覧会です。鑑賞した感想を語りあってみませんか？



● 10月10日(日)・時間未定
SIAFラウンジオンライン

事前登録は
こちら →



札幌国際芸術祭(SIAF)とは？

札幌国際芸術祭(Sapporo International Art Festival 略称:SIAF)は、3年に一度、札幌市内の美術館や文化施設、そして街中を舞台に、時代に呼応したアート作品やパフォーマンスなどを紹介する、国際的なアートの祭典です。

2014年に第1回、2017年に第2回が開催され、これまでワークショップ、トークイベントなどの参加型プログラムも数多く展開してきました。3回目となる2020年は残念ながら中止となりましたが、「SIAF2020特別編」として予定されていた企画の紹介展示やオンラインプログラムを実施。2021年3月には記録集を発行しました。現在は2023年度の開催に向けて検討を進めています。